

第2学年 国語科 学習指導案

比叡山中学校
教諭 村井航斗

1. 単元名 「水問題を考えよう」

2. 単元の目標

- 水問題に関する二つの資料から筆者の主張を読み取り、その視点の違いを考えることができる。
- 有効的な文章構成について学び、自身の記述へいかすことができる。
(知識及び技能)
- 三つの資料をもとに、水問題に対する課題意識を持ち、自分なりの視点で対応策を考え、意見文を書くことができる。
(思考力・判断力・表現力)
- 自分なりの視点を他者と共有し、より自身の意見を確かにすることができる。
(学びに向かう力・人間性等)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、一つ一つの資料を丹念に精読するのではなく、水問題の現状や原因、対応策などの観点から資料を比較し、水に関する意見文を書くための情報を効率的に収集していく読みが求められる。資料Aは水問題について、「見える水」と「見えない水」の双方から捉えて考えが述べられている。飲み水や生活用水を得られないだけでなく、農業用水や工業用水の減少も含めて「水不足」について述べられている。対して資料Bでは、「飲み水の不足」についての意見が述べられている。特に貧困地域や発展途上国における問題に厚く、「単なる水量の不足」ではなく、質が担保された水が足りない、という意味での「水不足」としての視点が述べられている。これら二つの主張の大きな違いは、水問題の原因とその対応策である。Aではその使用量の増加を主とした原因とし、節水や貯留といった使用量を抑える対応策を提案している。対してBでは、原因は浄水技術の不足やインフラの未整備とうの欠如が原因であると述べられており、対応策もそれに関するものが挙げられている。授業では、この二つの資料を読み、多角的な視点で水問題について捉えることを軸とし、自身の意見文を書くにあたって、どこに焦点を当てて書くのかを明確にしたい。資料Cはこの軸をより確かなものにするための資料であり、図や写真からの読み取りという観点で有用である。QRコードもあることから、教科書外の内容に関しても関心を向け、より深い内容の意見文を書けるような学びへつなげたい。

(2) 生徒観

近畿圏の水事情を支える琵琶湖の存在が身近すぎるが故に、それに対する関心はあまりないように伺える。水に関する危機感や日本の水の豊かさへの「気づき」が求められるのではないだろうか。これまで家庭科の授業内でMLG ‘sやSDG’sに関する内容を扱っているため、その概要に関してはおおよその理解をしていると考えられる。しかし、水に対して問題意識があるかと問われると、毎日多量の

水を使用しているため肯定はできないだろう。また、「自分は」といった狭い視野で物事を思考することはできるが、「日本は」延いては「世界は」「地球は」といった広い視野で捉えることは困難であると考えられる。本教材を取り扱うことで、我々がどのような環境で生活できているのかといった自覚と、世界の現状を見つめ直すことに繋がると考えられる。

(3) 指導観

本単元では、まず身の回りの水問題について考えさせることから、自らの視野の狭さ等への気づきを与えたい。資料Aの本文にもあるように、海で囲まれた日本では「水問題」を意識しづらく、まして琵琶湖が眼前に広がる環境下ではより困難さがあるのは自明である。ただし、海と琵琶湖の違い（淡水・海水）から「飲み水」の観点にはより深く迫ることができるため、資料Bの浄水技術の話題へと繋げ易いと考えられる。また、社会科の地理の授業によって、来年の宿泊研修で行く沖縄では雨水を貯水タンクに貯めていることも既知であり、今単元だけで終わるのではなく、宿泊研修での関心を向けることへも繋がりたい。最終の目標である「意見文を書く」ことに向けては、学び合いを通して資料Aと資料Bの内容比較を行うなどして、多角的な視点を養ったうえで取り組ませたい。

また、「自分には何ができるか」といった視点も必要である。「水問題で最も重要な問題は何だと考えるか」といった課題を出すことによって自身の意見を持たせ、他者との意見交流からよりその考えを確かなものへとしたい。

資料A、資料Bの文章構成についても触れることができるだろう。読み手に主張を伝えるための効果的な文章構成を学び、自身の意見文を書く際の参考としたい。

(4) ESDとの関連

・ 本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

- | | |
|-----|--|
| 多様性 | 水問題について、資料A・Bの内容を理解することや、他社との意見交流を通してさまざまな視点から考える。 |
| 有限性 | 限りある水資源をどのようにして守っていくか、資料をもとに問題意識を持って思考する。 |
| 責任制 | 問題意識をもって自分たちが行動することが大切である。 |

・ 本学習を通して育てたいESDの資質・能力の基礎

批判的に考える力（クリティカル・シンキング）

なぜ世界で水問題が起こっているのか、3つの資料をもとに論理的に思考する。

多面的・総合的に考える力

水問題について、複数の視点から捉えることで、具体的な解決策を見出す。

進んで参加する態度

作文を通して行動にうつすきっかけとする。

・ 本学習で育てたいESD価値観の基礎

自然環境、生態系の保全を重視する。

・ 達成に貢献できる SDGs



4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 学びに向かう姿勢・人間性等
<p>①水問題に関する二つの資料から筆者の主張を読み取り、その視点の違いを考えられている。</p> <p>②有効的な文章構成について考え、自身の記述へ活かしている。</p>	<p>① 三つの資料をもとに、水問題に対する課題意識を持ち、自分なりの視点で対応策を考え、意見文を書いている。</p>	<p>①自分なりの視点を他者と共有し、より自身の意見を確かに行うことができる。</p>

5. 単元の指導計画（全6時間）

次	主な学習活動	学習への支援	○評価・備考
1	<p>○「水問題」と言われて何を思い浮かべるか。また、その原因は何であるかを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 琵琶湖の水質悪化 → 人の生活が影響する赤潮・アオコの増加。 災害時の断水による水不足 → 震災など <p>○資料A・Bを読んで感じたことをノートにまとめよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒から出てきた水問題について、他の生徒へ繋ぐ。 具体的で無い意見に関してはより具体的な内容を求めるようにグループへ促す。 身近な例は無いかと問いかける。 	<p>○ア① (知・技)</p> <p>○ウ① (学びに)</p>
2	<p>○前回まとめたことを共有したうえで、「なぜ、世界で水問題が起こっているのか」を本文の内容や資料をもとに説明できるようになろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 水の使い過ぎ 技術不足 バーチャルウォーターという言葉を初めて聞いた。 アフリカの水資源量の減り方が著しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 初めて聞いた言葉はなかったか、グラフや写真を見て気づくことはなかったか等 「気づいたこと」から、なぜ、それが起こっているのかを考えさせる。 今後の意見文作成のために、どのようなことをすれば問題解決につながるかをグループで考えさせる。 本文に即して、具体的な発言を促す。 	<p>○ア① (知・技)</p> <p>○ウ① (学びに)</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・先進国でも水を「そのまま飲める」国は少ない。 		
3	<p>○「水の問題」であなたが最も重要だと考える要因は何か。理由を明確にして意見を述べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能を考えずに、水を使いすぎて、水資源がなくなっていることが問題だと思う。 ・バーチャルウォーターを使いすぎていることが問題だと思う。 ・国ごとの浄水技術に差がありすぎるものが問題だと思う。 ・国ごとの貧富の差が問題だと思う。 <p>○出た意見に対して、それぞれへの具体的な対応策を考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何度も同じ水を使えるような仕組みが必要。日本の用水路の技術を世界に発信する。 ・「規格外品」を積極的に購入する。 ・コストの小さい技術開発に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの資料でどのようなことが述べられていたかを整理する。 ・共有時には具体的な根拠を明確に示すことを促す。 ・他者との視点の違いが大切であることを伝える。 ・他者がなぜそう考えたのか思考させる。 ・否定はさせない。 ・メンバーが理解できるまで粘り強く説明させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ア① (知・技) ○イ① (思判表) ○ウ① (学びに)
4	<p>○これまでの内容を踏まえて、水問題に関する意見文を四百字以内で書いてみよう。</p> <p>○資料A・Bを参考にして、段落構成について、どのようにすればより伝わりやすい意見文になるのか考え、書いてみよう。</p> <p>○自分と同じ視点で書いている人と協議し、より意見を確かなものにしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・書き始めるのが困難な生徒には書き出しの指定をする。また、A・Bではどのように文章が構成されているかを確認する。 ・互いの文章を見合い、意見がきちんと伝わるか推敲させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ア② (知・技) イ① (思判表) ウ① (学びに)